

第八十八回フォト句優秀作品（30年10月16日）



無重力空間

遠い星目指す

(アキヤ)



夕暮れや

水面に溶ける

秋の空
(正二)



それぞれが

彼岸へ逝きし

人に見ゆ
(隆)



俗世捨て

毒婦を困う

濡れ落葉
(三春)

寸 評：

1) 無重力空間遠い星目指す

中村 晃也

出目金が空間に浮かんでいる不思議な画像に破調（十七文字を用いているが、五七五のリズムに乗っていない）の句がついた。こんな画像を見て人はどう感ずるのだろうか。単なる風景写真とは異なる分野への挑戦かもしれない。

2) 夕暮れや水面に溶ける秋の空

矢澤 正二

水面に映った紅葉を詠わずに秋の空を詠った。おとなしい作品だが、写真か句にもうひとつパンチが欲しい。

3) それぞれが彼岸へ逝きし人に見ゆ

池田 隆

時候に合った作品ではある。バラバラに植えてある花それぞれが亡くなった人を象徴しているかのようだ。が、彼岸花の画像と彼岸の句ではいかにも近すぎの感がある。句意からして作品全体が寂しすぎる。

4) 俗世捨て毒婦を囲う濡れ落ち葉

三 春

落ち葉に囲まれた毒キノコの画像である。写真だけではどうということもないが、アクの強い句と意表をついた句の挿入法でユニークな作品になった。



今月のお題写真は、大越さんの提供。渋谷のセルビアンタワーの2Fにこんな絵があるとのこと。

寸評：

1) 人民服脱いだ上海 ウィンドウ 安藤 晃二

この写真を見て中国を思い浮かべたセンスは素晴らしいものがある。

句意が今いち不明瞭であるが、お題の撮影意図も相当程度不明瞭な点があり、丁度いいのかもしれない。

2) 秋晴れのパリ の舗道や品定め 松田 昌康

1) の句が上海ならこの句ではパリが舞台になっている。要するにこのお題は日本離れしているということだろう。因みにこの2句は

同率首位であった。

3) プレスリーアズナブールにジョンレノン 新田 由紀子

写真を見て感覚的に思い出したのかカタカナの懐かしい名前が並んだ。

4) パリジェンヌか男と見るか品評会 長尾 進一郎

男か女かわからないような人物が描かれているということか？

5) 洒落すぎて屏風になれず壁紙に 松田 昌康

洒落すぎるとは相当な皮肉とうけとったが。壁紙にも使えるかどうか疑問だ。

6) 百年後考証用に女凶屏風 安藤 晃二

女凶屏風という新語？が飛び出した！

7) 探幽も頭抱えてこれ屏風？ 三 春

同じ屏風の句でもこのほうが理解できる。

8) 姦しい嗚呼姦しい姦しい 池田 隆

これも感覚的な句だ。この句には女性票が2票入ったのも不思議だ。

以 上